

涌谷町  
高齡者福祉計画・第9期介護保険事業計画

---

現況調査報告書

令和5年6月  
宮城県 涌谷町



◆◆ 目 次 ◆◆

---

I 涌谷町の高齢者を取り巻く状況.....	1
1 人口・世帯数等の状況.....	1
2 後期高齢者医療の推移.....	4
3 要支援・要介護認定者の状況.....	6
4 介護保険の状況.....	8
5 地区ごとの状況.....	10
6 国・県との比較.....	15



# I 涌谷町の高齢者を取り巻く状況

第9期介護保険事業計画策定のため、涌谷町の高齢者を取り巻く環境の基礎調査として下記のとおり統計データ等を整理しました。

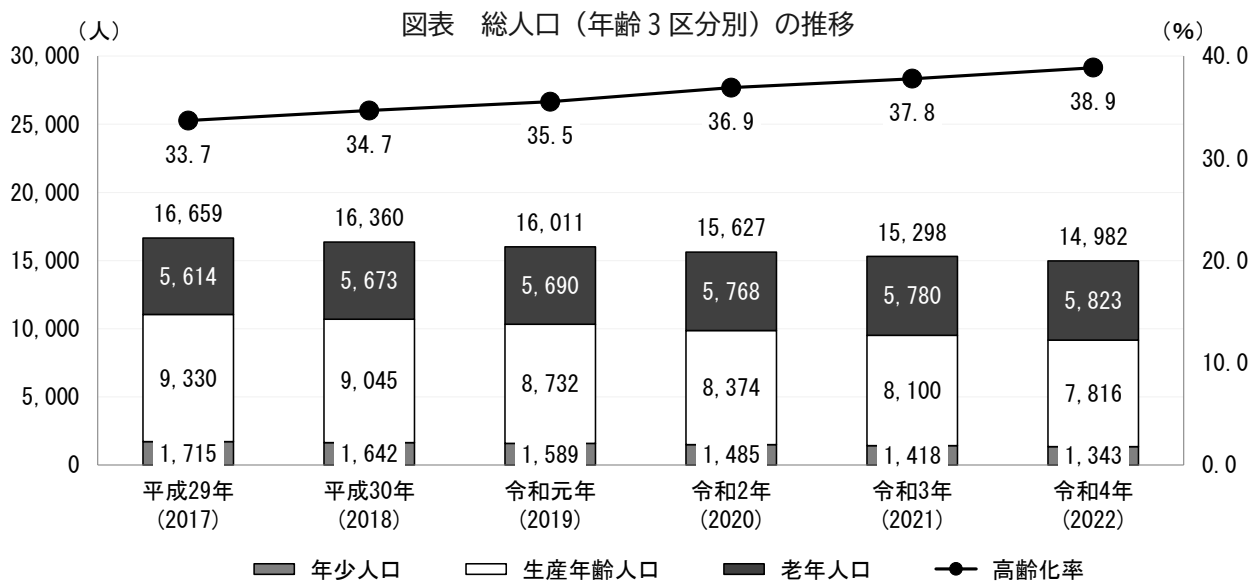
## 1 人口・世帯数等の状況

### (1) 人口

#### ① 総人口の推移（住民基本台帳）

住民基本台帳における涌谷町の令和4年（2022）9月末現在の総人口は14,982人となっています。総人口は減少が続いており、平成29年（2017）から令和4年（2022）にかけて1,677人（10.1%）減少しています。

また、年齢3区分別の推移をみると、年少人口は372人（21.7%）、生産年齢人口は1,514人（12.6%）ともに減少、老年人口は209人（3.7%）増加しています。高齢化率も年々上昇しており令和4年（2022）9月末現在の高齢化率は38.9%となっています。



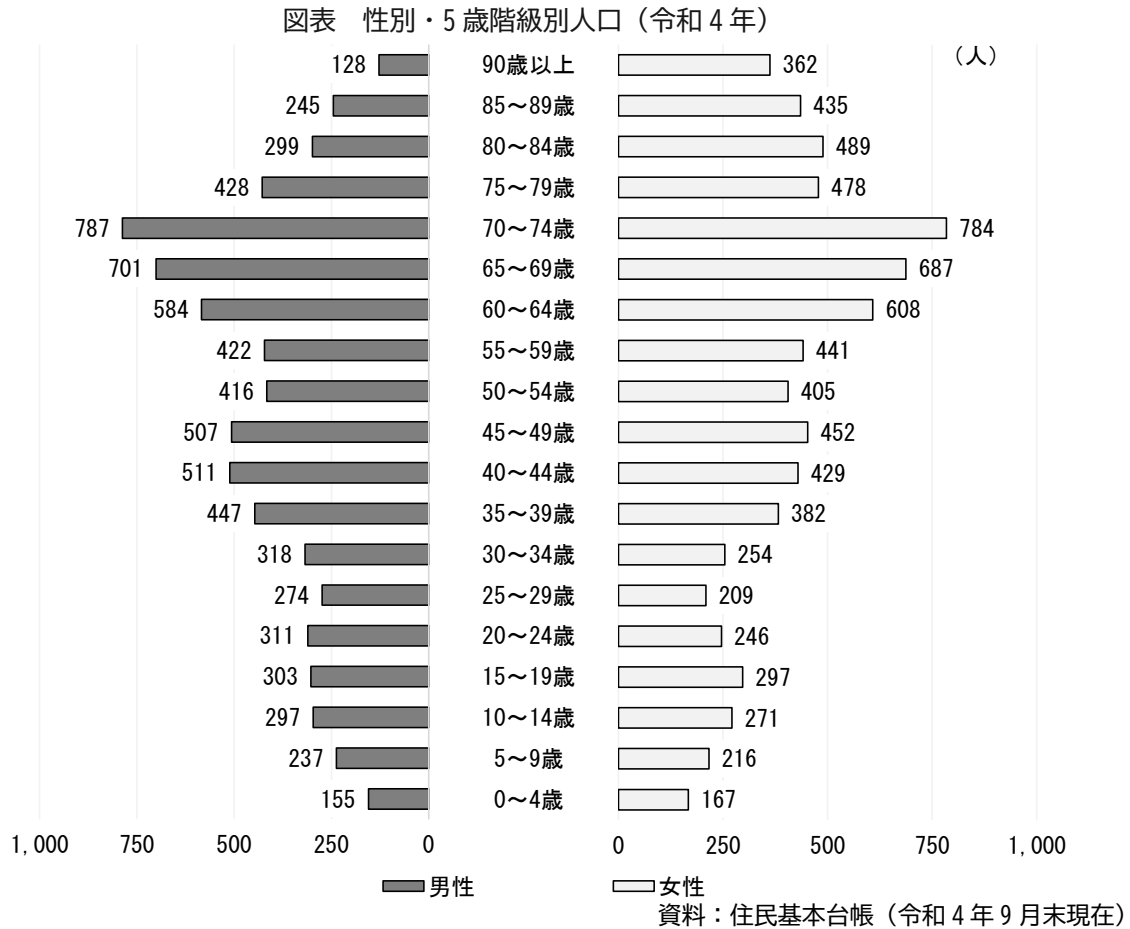
区 分	平成 29 年 (2017)	平成 30 年 (2018)	令和元年 (2019)	令和 2 年 (2020)	令和 3 年 (2021)	令和 4 年 (2022)	
総人口 (人)	16,659	16,360	16,011	15,627	15,298	14,982	
年 齢 別	年少人口 (人)	1,715	1,642	1,589	1,485	1,418	1,343
	生産年齢人口 (人)	9,330	9,045	8,732	8,374	8,100	7,816
	老年人口 (人)	5,614	5,673	5,690	5,768	5,780	5,823
世帯数 (世帯)	6,076	6,067	6,040	6,017	5,989	5,981	
一世帯当たり人員 (人/世帯)	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	

※総人口には年齢不詳人口を含みます。

資料：住民基本台帳（各年9月末現在）

## ② 人口ピラミッド

住民基本台帳における涌谷町の令和4年（2022）9月末現在の性別・5歳階級別人口をみると、70歳代前半をピークに年齢の低下とともに減少傾向にあり、少子高齢化の人口分布となっています。



### 〈参 考〉

平成29年（2017）以降の各人口指数の推移をみると、老年人口指数、従属人口指数、老年化指数が増加しています。

図表 人口指数の推移

区 分	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)
年少人口指数	18.4	18.2	18.2	17.7	17.5	17.2
老年人口指数	60.2	62.7	65.2	68.9	71.4	74.5
従属人口指数	78.6	80.9	83.4	86.6	88.9	91.7
老年化指数	327.3	345.5	358.1	388.4	407.6	433.6

※年少人口指数：生産年齢人口（15～64歳）100人が何人の年少人口（0～14歳）を扶養しているかを示し、人口の若年化の程度を知る指数。（年少人口指数＝年少人口÷生産年齢人口×100）

※老年人口指数：生産年齢人口100人に対し、社会的・経済的な面で負担となる老年人口が何人になるかを示し、人口の高齢化を知る指数。（老年人口指数＝老年人口÷生産年齢人口×100）

※従属人口指数：働き手である生産年齢人口100人に対し、子どもと高齢者（従属人口）をどれだけ養うかを表す指数。（（年少人口＋老年人口）÷生産年齢人口×100）

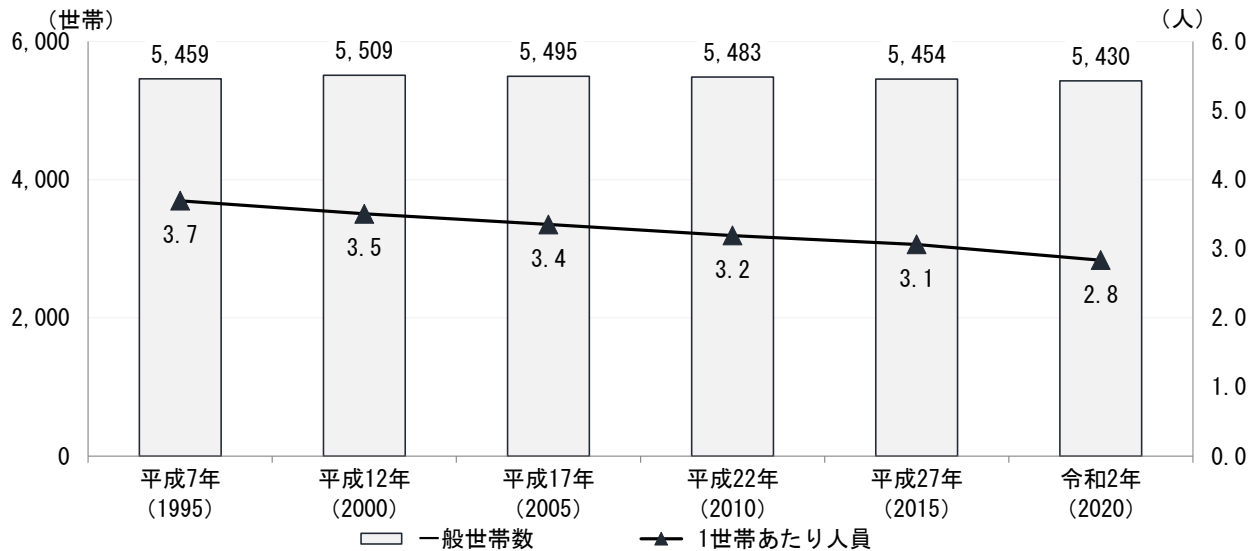
※老年化指数：年少人口に対する老年人口の大きさを示し、人口の高齢化の程度を知る1つの指標で、生産年齢人口の多少による影響を除いているため、人口高齢化の程度をより端的に示す指数。これが高いと、老年人口が多いこと、あるいは将来の人口を支える年少人口が少ないことを意味しています。（老年化指数＝老年人口÷年少人口×100）

## (2) 世帯数（国勢調査）

### ① 一般世帯数・1世帯あたり人員の推移

国勢調査における涌谷町の世帯数の推移をみると、平成12年（2000）をピークに減少が続いており、令和2年（2020）には一般世帯数が5,430世帯、1世帯あたり人員は2.8人となっています。

図表 一般世帯数・1世帯あたり人員の推移

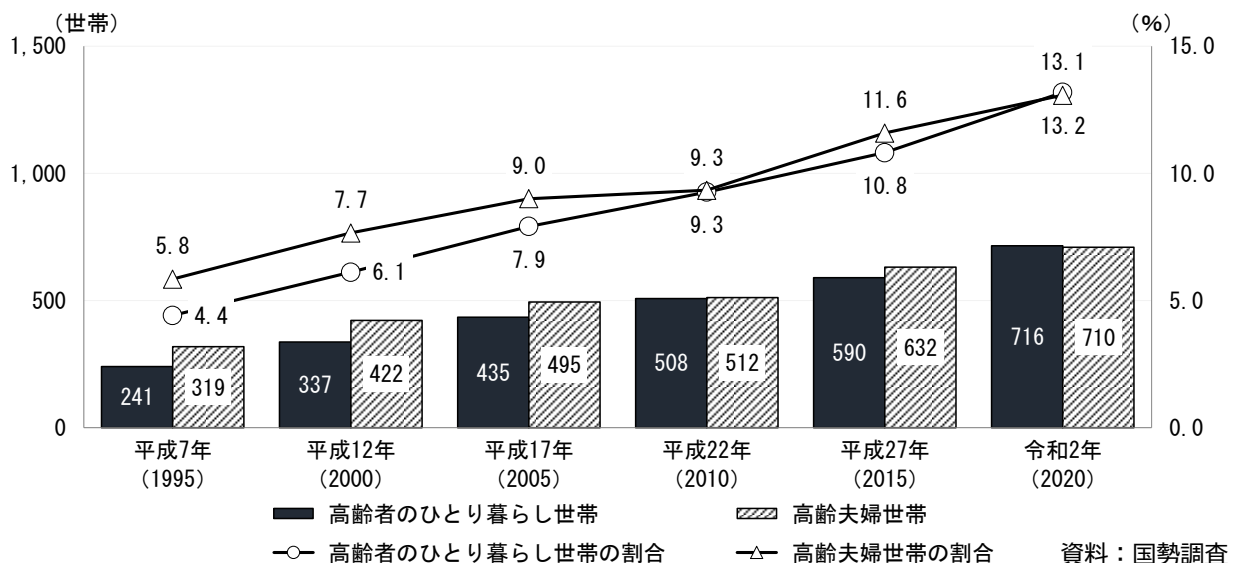


資料：国勢調査

### ② 高齢者のいる世帯数の推移

国勢調査における涌谷町の高齢者のいる世帯数の推移をみると、平成7年（1995）から令和2年（2020）にかけて高齢者のひとり暮らし世帯、高齢夫婦世帯ともに増加しており、一般世帯数に占める割合も上昇が続いています。

図表 高齢者のいる世帯数の推移



資料：国勢調査

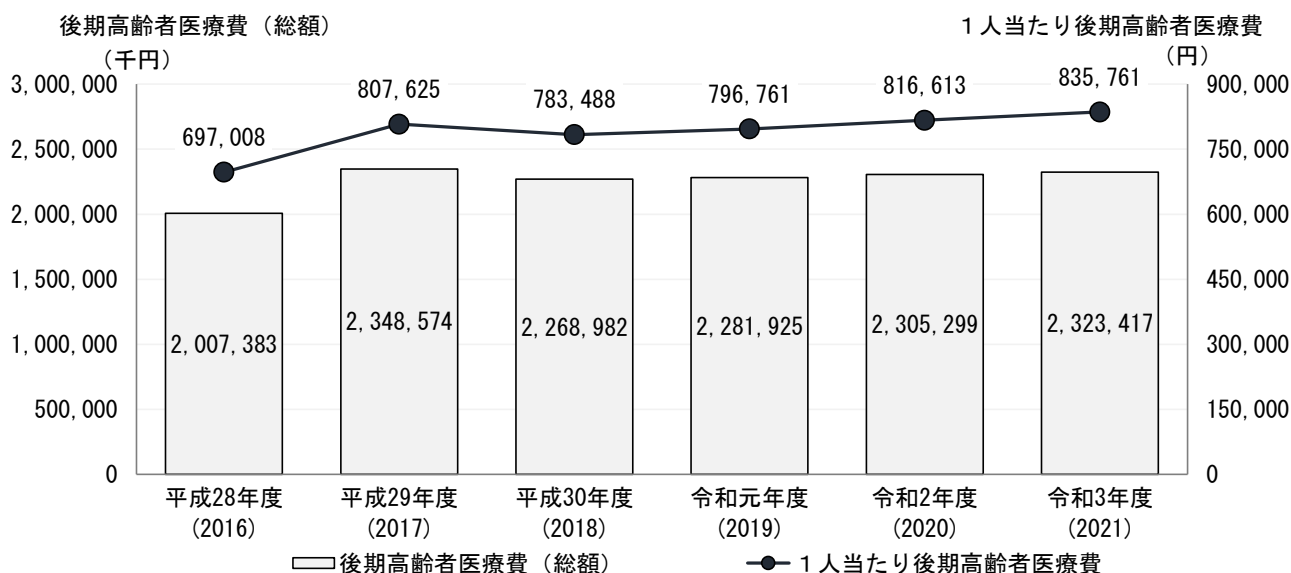
## 2 後期高齢者医療の推移

### (1) 後期高齢者医療費、1人当たり後期高齢者医療費の推移

国民健康保険・後期高齢者医療の概要による後期高齢者医療費（総額）の推移をみると、平成29年度（2017）から令和元年（2019）にかけて減少していましたが、以降増加して令和3年度（2021）には2,323,417千円（23億2342円）となっています。

1人当たり後期高齢者医療費は平成30年度以降増加しており、令和3年度（2021）には835,761円/月（83万5,761円/月）と過去6年間で最も高額になっております。

図表 後期高齢者医療費、1人当たり後期高齢者医療費の推移



資料：国民健康保険・後期高齢者医療の概要（宮城県）

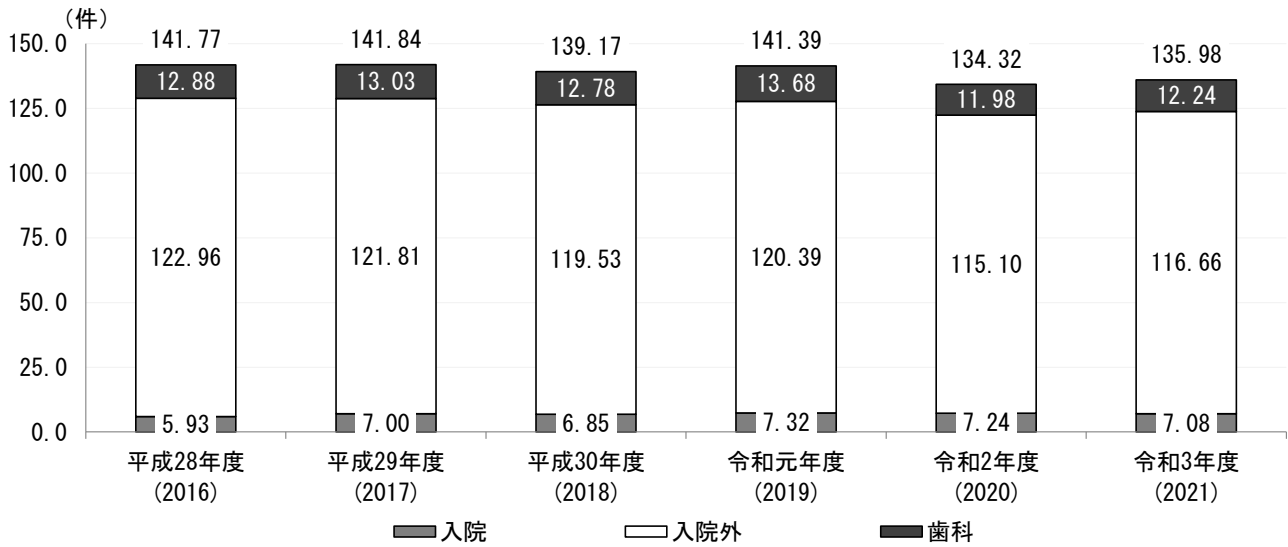


## (2) 後期高齢者医療受診状況の推移

国民健康保険・後期高齢者医療の概要による後期高齢者医療受診状況の推移をみると、増減を繰り返しながら推移しており令和3年度(2021)には135.98件/月となっております。

内訳をみると、過去6年間で入院は増加、入院外、歯科は減少となっております。

図表 後期高齢者医療受診状況の推移



資料：国民健康保険・後期高齢者医療の概要（宮城県）

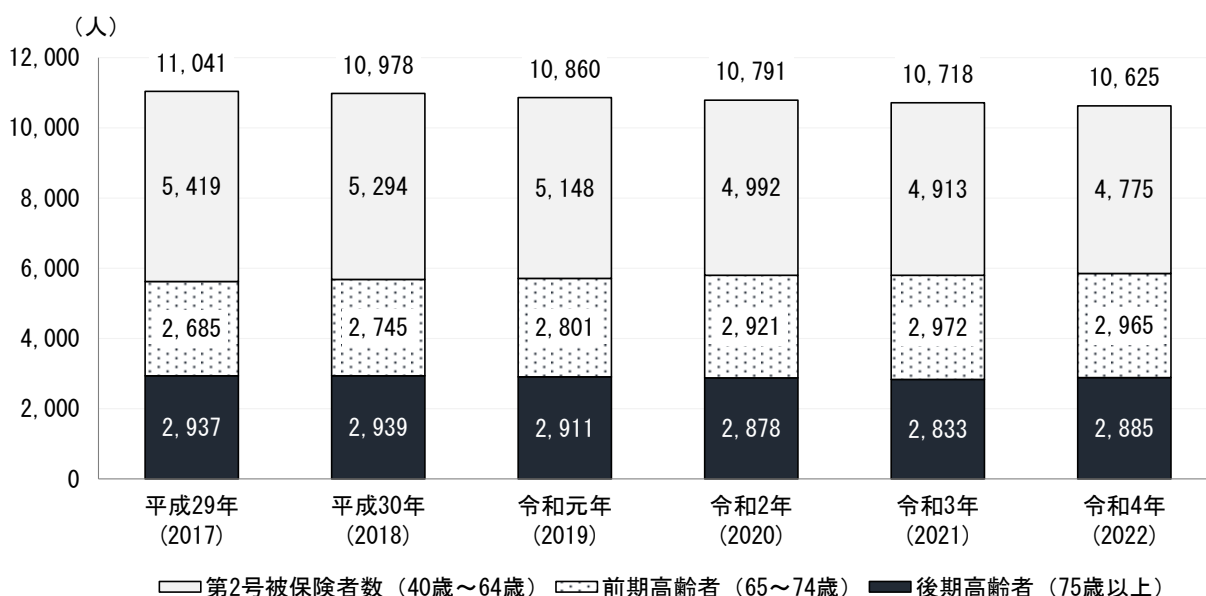
### 3 要支援・要介護認定者の状況

#### (1) 介護被保険者数

第1号被保険者人口の推移を前期・後期高齢者別にみると、前期高齢者は増加傾向、後期高齢者は減少傾向となっています。令和4年(2022)9月末現在、前期高齢者は2,965人で高齢者全体に占める割合は50.7%、後期高齢者は2,885人で高齢者全体に占める割合は49.3%で前期高齢者の割合が増加しています。

第2号被保険者人口は減少が続いており、令和4年(2022)9月末現在で4,775人となっています。

図表 介護被保険者数の推移



単位：上段(人) / 下段(%)

	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)
第1号被保険者数(65歳以上)①	5,622	5,684	5,712	5,799	5,805	5,850
(構成比 ①/⑤)	50.9%	51.8%	52.6%	53.7%	54.2%	55.1%
前期高齢者(65~74歳)②	2,685	2,745	2,801	2,921	2,972	2,965
(構成比 ②/①)	47.8%	48.3%	49.0%	50.4%	51.2%	50.7%
後期高齢者(75歳以上)③	2,937	2,939	2,911	2,878	2,833	2,885
(構成比 ③/①)	52.2%	51.7%	51.0%	49.6%	48.8%	49.3%
第2号被保険者数(40歳~64歳)④	5,419	5,294	5,148	4,992	4,913	4,775
(構成比 ④/⑤)	49.1%	48.2%	47.4%	46.3%	45.8%	44.9%
合計⑤	11,041	10,978	10,860	10,791	10,718	10,625

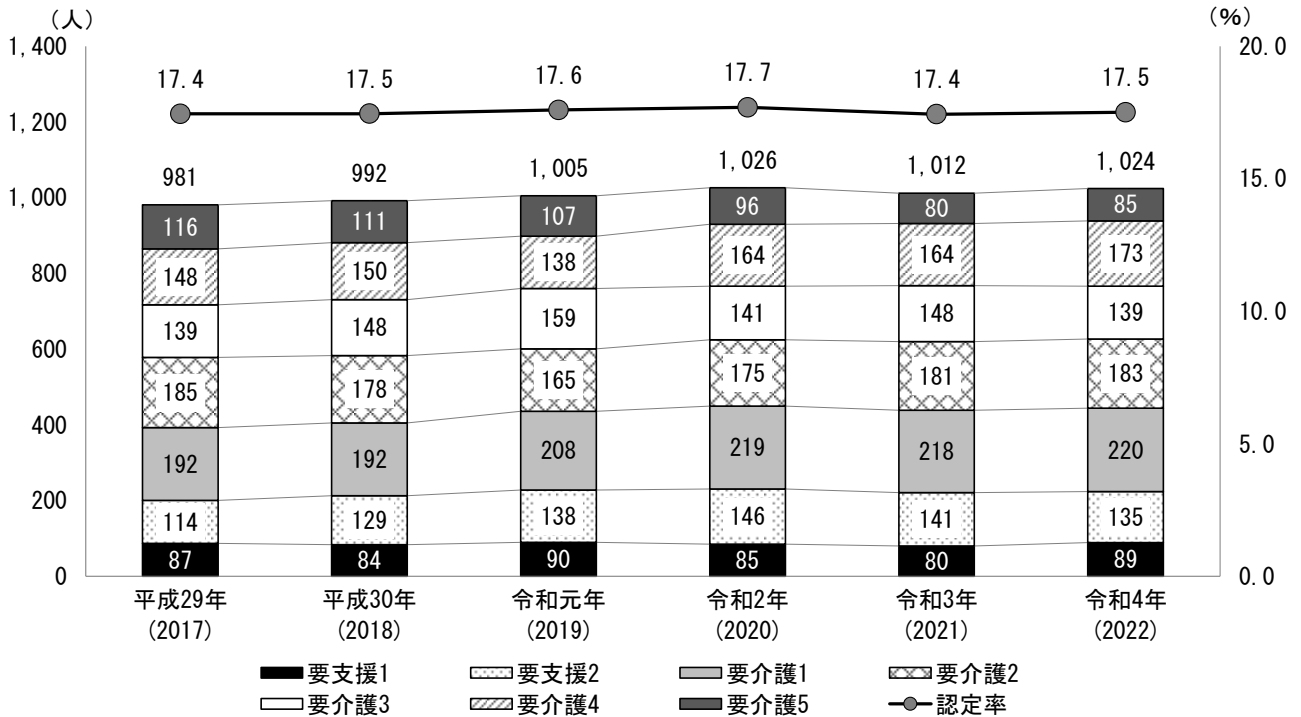
資料：第1号被保険者は介護保険事業状況報告(各年9月月報)  
第2号被保険者は住民基本台帳(各年9月末現在)

## (2) 要支援・要介護認定者

要支援・要介護認定者数は増加傾向となっており、令和4年(2022)9月末現在は1,024人となっています。また、第1号被保険者数に占める認定者の割合(認定率)は17.5%前後で推移しており、令和4年(2022)9月末現在17.5%となっています。

要介護度別にみると、要介護5は減少傾向にあるものの、要介護1・4は増加傾向となっており、今後、介護度重度化が懸念されます。

図表 要支援・要介護認定者の推移



※認定率は認定者数(第2号被保険者含む)に第1号被保険者数で除して算出

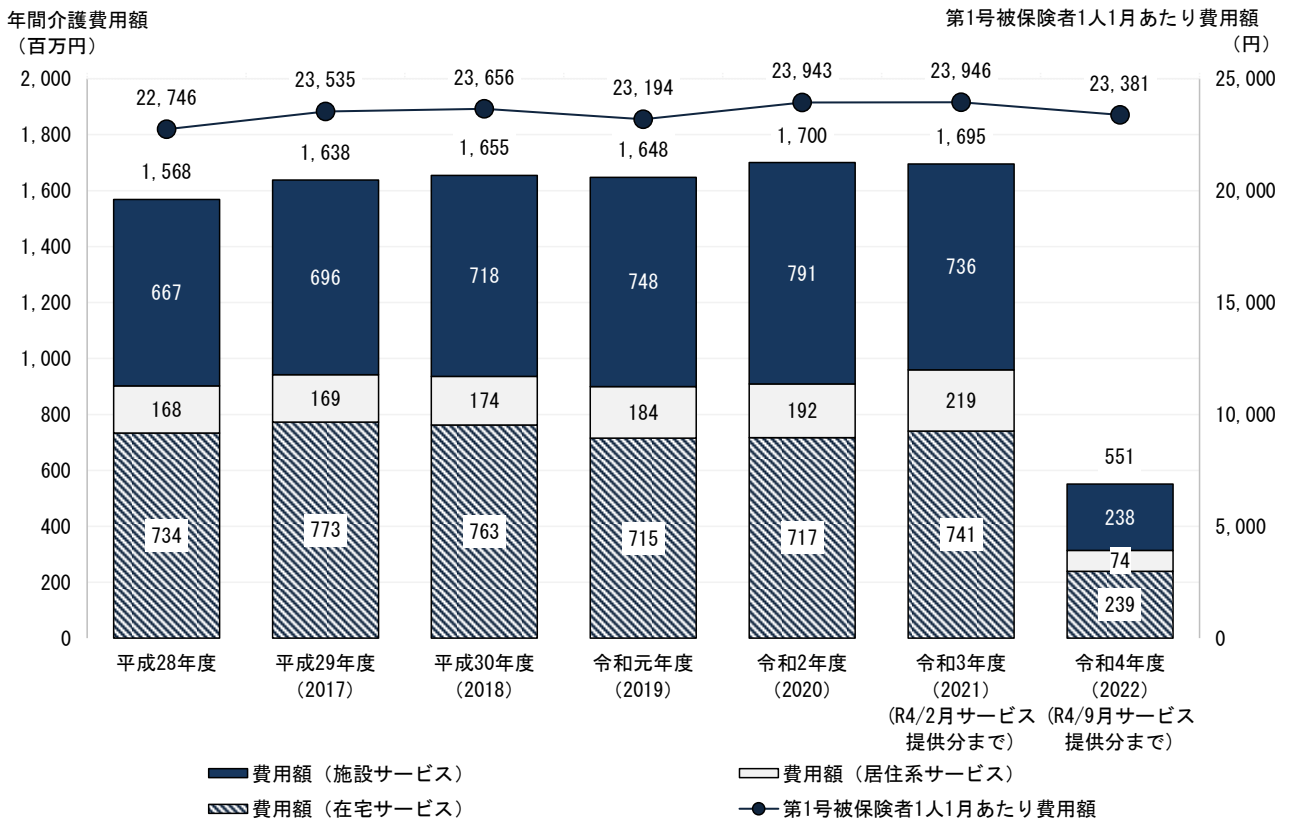
資料:介護保険事業状況報告(各年9月月報)

## 4 介護保険の状況

### (1) 介護費用額

介護費用額、第1号被保険者1人1月あたりの費用額は増減を繰り返しながら推移しており、令和3年度(2021)2月サービス提供分時点の介護洋楽は1,695百万円、第1号被保険者1人1月あたりの費用額は23,946円となっています。

図表 介護費用額の推移

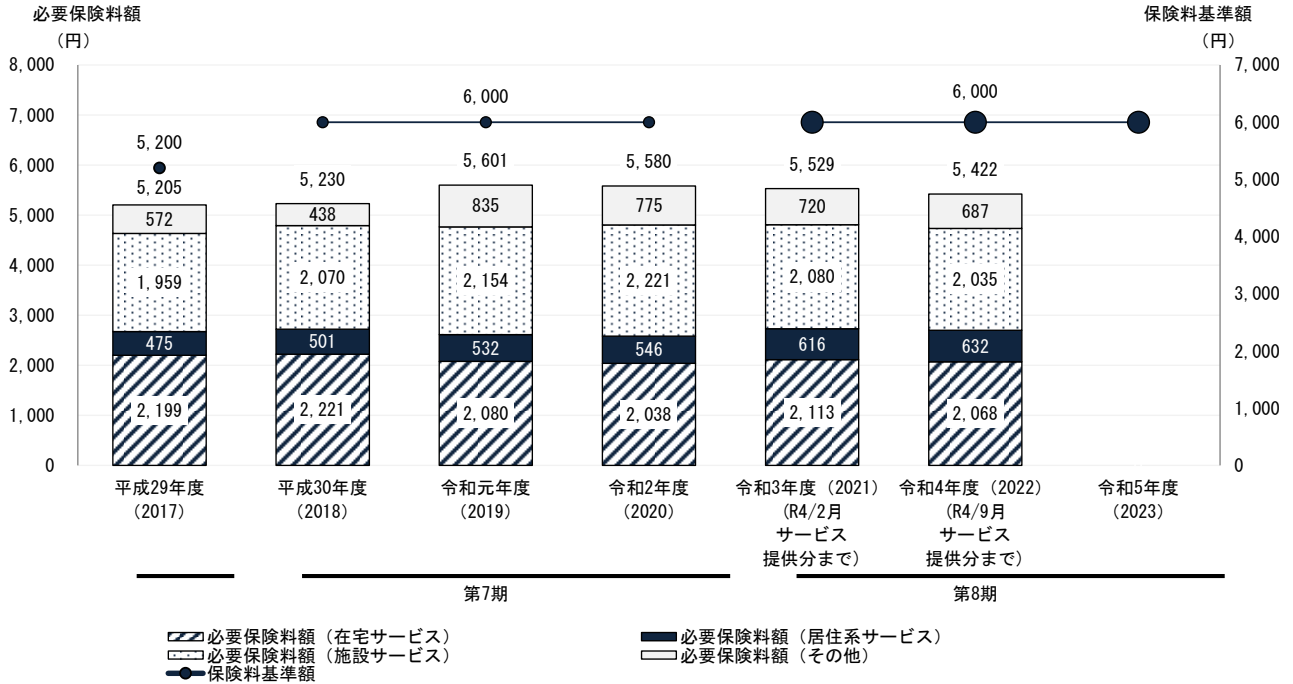


資料：厚生労働省 地域包括ケア「見える化」システム

## (2) 保険料額

必要保険料額は令和元年度（2019）をピークに減少しており、令和4年度（2022）9月サービス提供分までの必要保険料額は5,422円と基準額を下回っています。

図表 保険料額の推移



浦谷町の必要保険料額の順位		
(令和4年9月末時点)		
宮城県内	30番目	35保険者
全国	1,061番目	1,571保険者

資料：厚生労働省 地域包括ケア「見える化」システム

## 5 地区ごとの状況

### (1) 人口・世帯数等

各地区における人口、世帯数、施設の設置状況は以下のとおりです。

図表 人口・世帯数等（地区別）

		東地区	西地区	箕岳地区	
総	人 口	3,592 人	8,390 人	3,000 人	
	第 2 号被保険者（40～64 歳）	1,128 人	6,592 人	930 人	
	第 1 号被保険者（65 歳以上）	1,541 人	2,924 人	1,383 人	
	前期高齢者（65～74 歳）	767 人	1,469 人	702 人	
	後期高齢者（75 歳以上）	774 人	1,455 人	681 人	
総	世 帯 数	1,436 戸	3,468 戸	1,077 戸	
	高齢者世帯数	1,181 戸	2,188 戸	1,044 戸	
	高齢者独居世帯	595 戸	1,082 戸	421 戸	
	高齢者のみ世帯	393 戸	796 戸	352 戸	
	その他高齢者のいる世帯	193 戸	310 戸	271 戸	
施 設	特別養護老人ホーム	設置数	2 か所	0 か所	0 か所
		定 員	120 人	—	—
	介護老人保健施設	設置数	1 か所	0 か所	0 か所
		定 員	80 人	—	—
	介護医療院	設置数	0 か所	0 か所	0 か所
		定 員	—	—	—
	ケアハウス	設置数	0 か所	0 か所	0 か所
		定 員	—	—	—
	住宅型有料老人ホーム	設置数	0 か所	1 か所	1 か所
		定 員	—	10 人	12 人
	グループホーム	設置数	1 か所	1 か所	1 か所
		定 員	18 人	15 人	18 人
	サービス付き高齢者住宅	設置数	0 か所	1 か所	0 か所
		戸 数	—	35 人	—

資料：涌谷町健康課（令和 4 年（2022）9 月末現在）

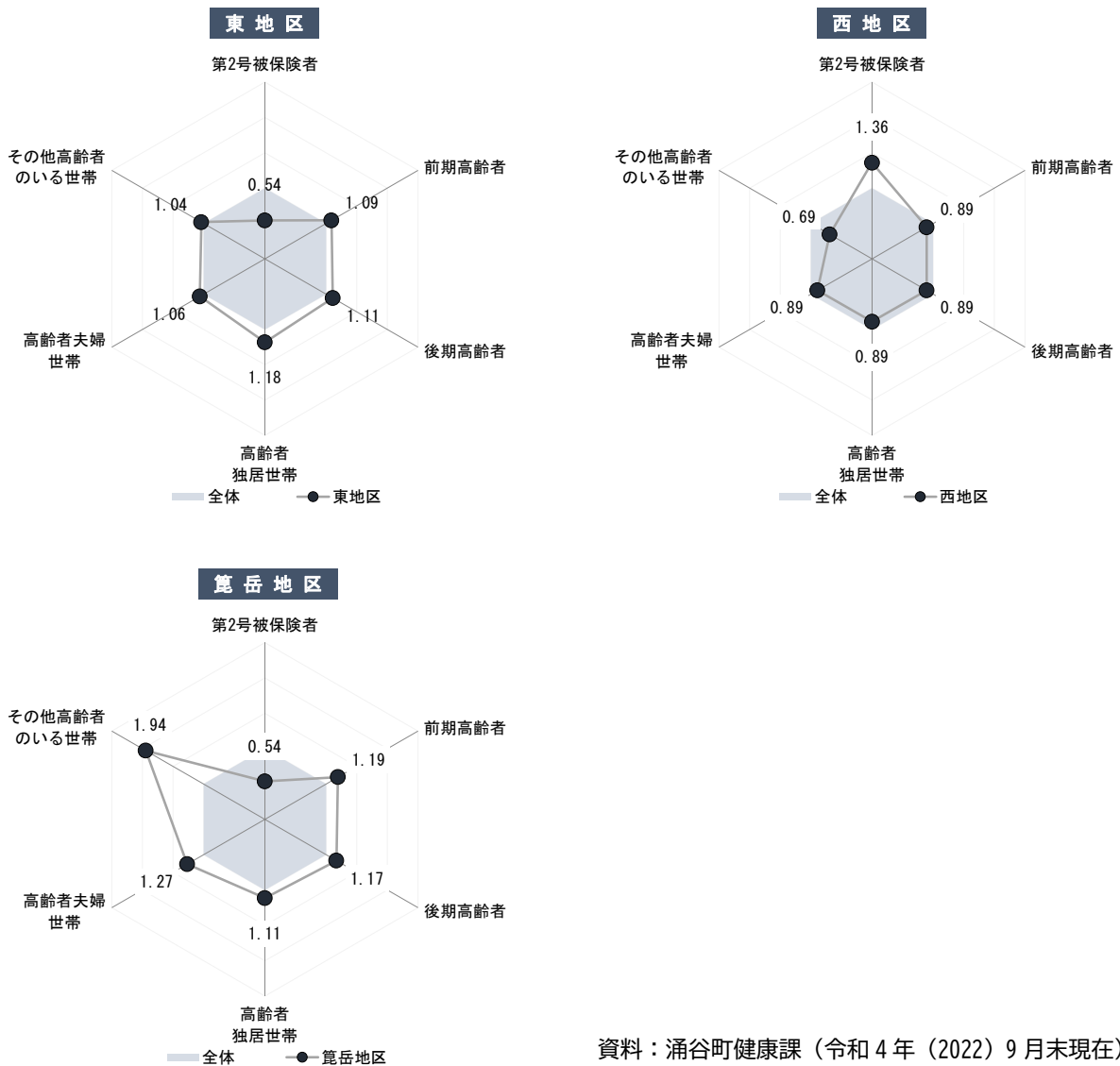
## (2) 高齢者・高齢世帯の構成比の比較

町全体を“1”として高齢者・高齢世帯の構成比を地区別で比較すると、東地区では第2号被保険者数が“0.54”と町全体より46%低くなっています。

西地区では、第2号被保険者数が“1.36”と町全体を上回っていますが、その他高齢者のいる世帯では“0.69”と町全体より低い値となっています。

箕岳地区では、第2号被保険者数が“0.54”と町全体より46%低くなっていますが、その他高齢者のいる世帯では“1.94”と町全体の94%高くなっています。

図表 要介護度別の出現状況（高齢者全体）（組合全体=1）



資料：涌谷町健康課（令和4年（2022）9月末現在）

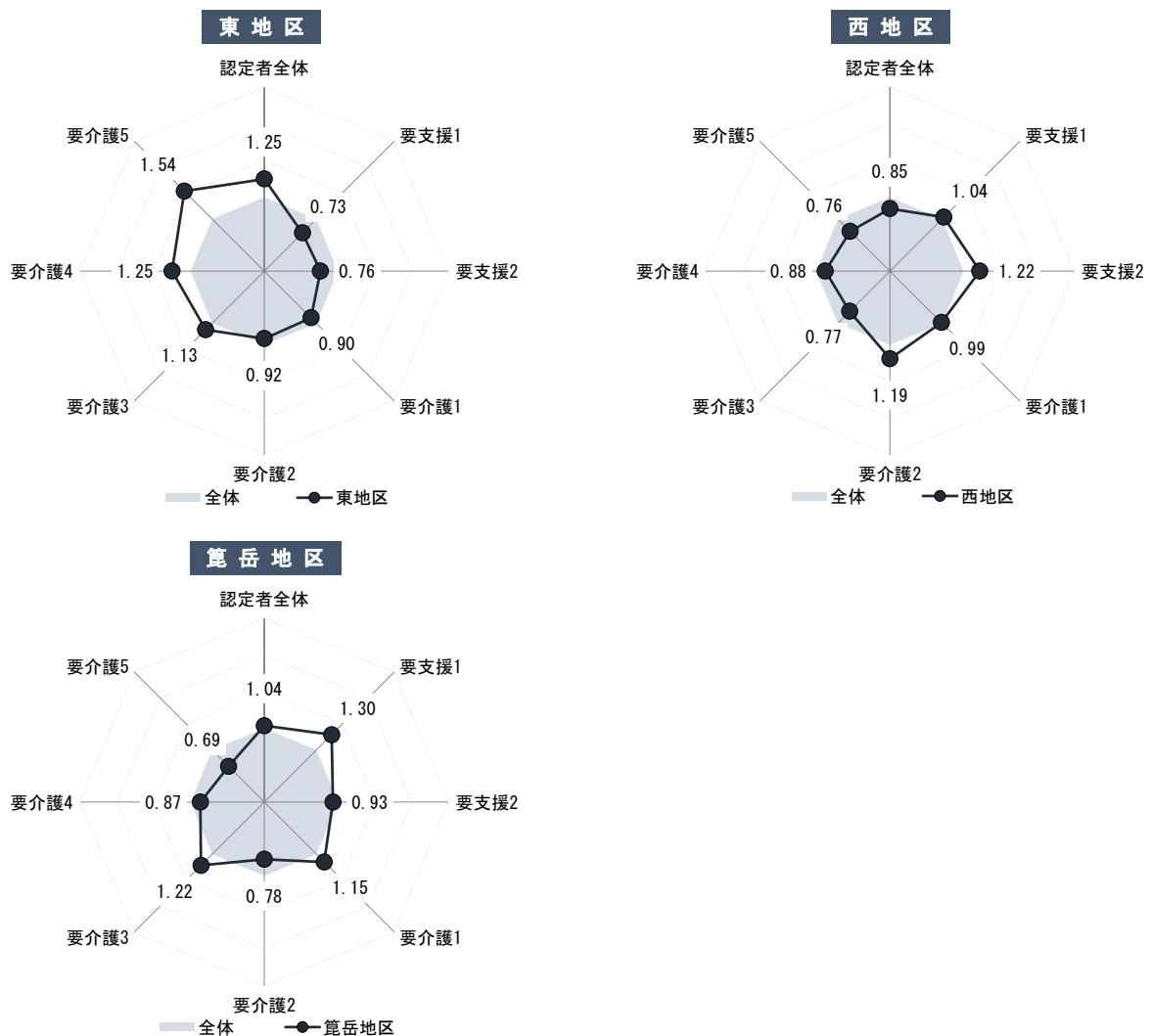
### (3) 高齢者全体における要介護度別の出現状況

町全体を“1”として高齢者全体における要介護度別の出現状況を地区別で比較すると、東地区では認定者全体で“1.25”となっており、町全体より25%高くなっています。これを要介護度別で見ると、要支援1から要介護2の軽～中度層では町全体より低い値となっていますが、要介護3以上では町全体より高く、特に要介護5では“1.54”と町全体より54%高くなっています。

西地区では、認定者全体で“0.85”となっており、町全体より15%低くなっています。これを要介護度別で見ると、要支援1から要介護2の軽～中度層では町全体より高い値となっていますが、要介護3以上では町全体より低い値となっています。

箕岳地区では、認定者全体で“1.04”となっており、町全体より4%高くなっています。これを要介護度別で見ると、要支援1で“1.30”、要介護1で“1.15”、要介護3で“1.22”と高い値となっており、その他の要介護度では町全体より低い値となっています。

図表 要介護度別の出現状況（高齢者全体）（組合全体=1）



資料：涌谷町健康課（令和4年（2022）9月末現在）



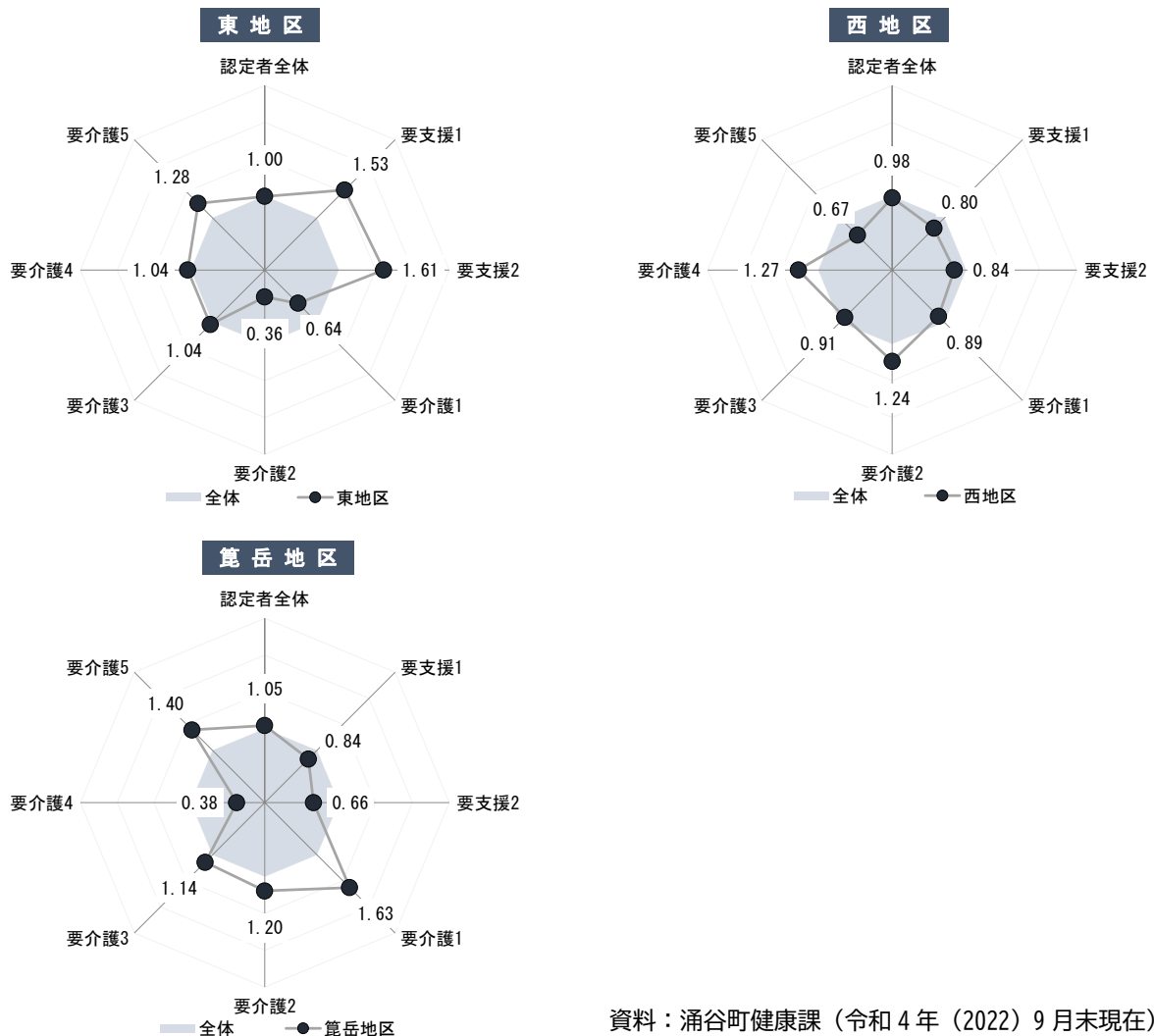
#### (4) 前期高齢者における要介護度別の出現状況

町全体を“1”として前期高齢者における要介護度別の出現状況を地区別で比較すると、東地区では認定者全体で“1.00”となっています。これを要介護度別でみると、要介護1、要介護2が低く、特に要介護2は“0.36”と町全体より64%低くなっています。その他の要介護度では町全体より高い値となっており、特に要支援1が“1.53”、要支援2が“1.61”と町全体より50%以上高くなっています。

西地区では、認定者全体で“0.98”となっており、町全体より2%低くなっています。これを要介護度別でみると、要介護2が“1.24”、要介護4が“1.27”と高い値となっていますが、その他の要介護度では町全体より低い値となっています。

箕岳地区では、認定者全体で“1.05”となっており、町全体より5%高くなっています。これを要介護度別でみると、要支援1・2、要介護4が低く、特に要介護4は“0.38”と町全体より62%低くなっています。その他の要介護度では町全体より高い値となっており、特に要介護1が“1.63”と町全体より63%高くなっています。

図表 要介護度別の出現状況（前期高齢者）（組合全体=1）



資料：涌谷町健康課（令和4年（2022）9月末現在）

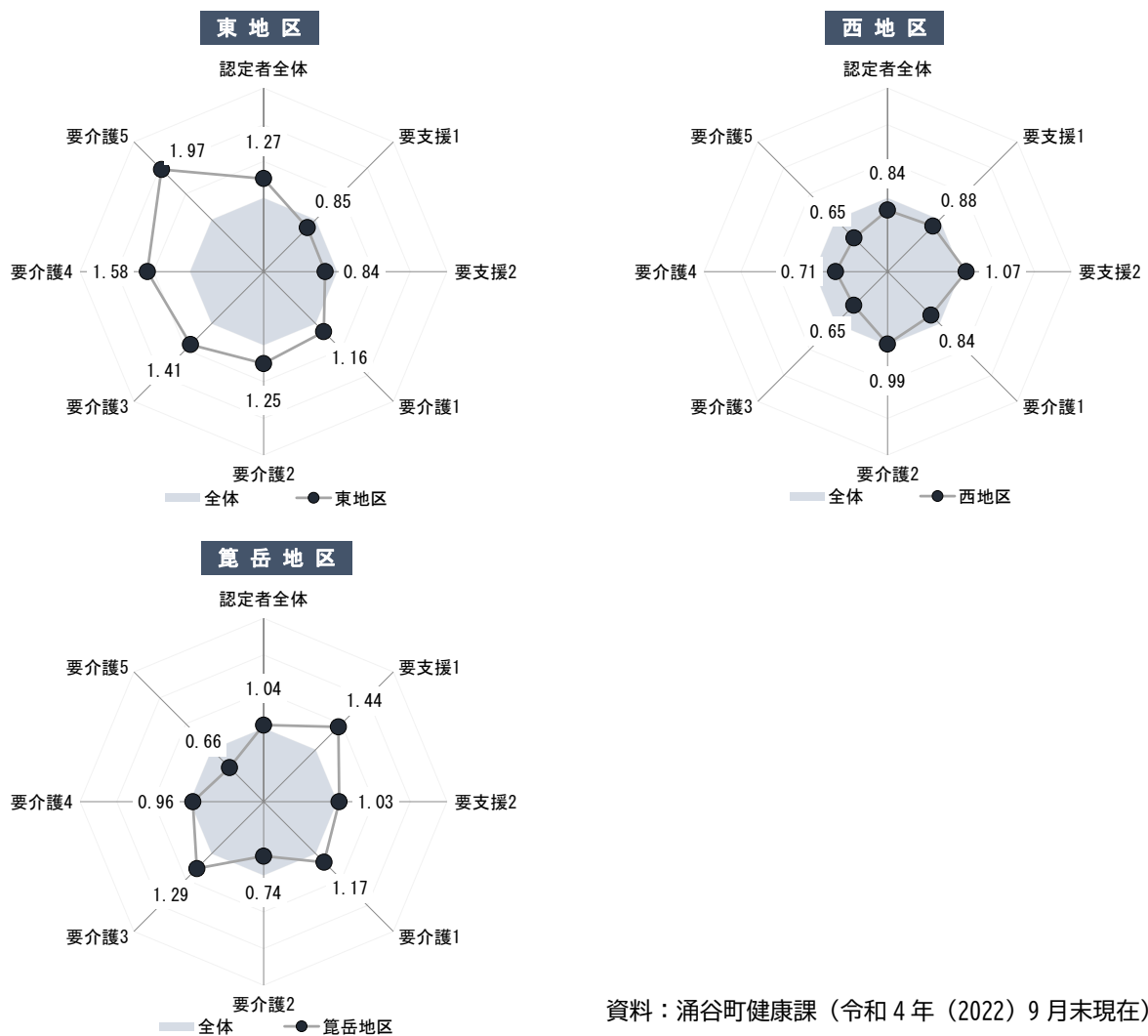
## (5) 後期高齢者における要介護度別の出現状況

町全体を“1”として後期高齢者における要介護度別の出現状況を地区別で比較すると、東地区では認定者全体で“1.27”となっており、町全体より27%高くなっています。これを要介護度別で見ると、要支援1・2は低く、その他の要介護度は町全体より高い値となっており、特に要支援5が“1.97”と町全体より97%高くなっています。

西地区では認定者全体で“0.84”となっており、町全体より16%低くなっています。これを要介護度別で見ると、要支援2は町全体と比較して高い値となっており、その他の要介護度では同程度か低い値となっています。

箕岳地区では、認定者全体で“1.04”となっており、町全体より4%高くなっています。これを要介護度別で見ると、要支援1と要介護1・3では町全体と比較して高い値となっており、その他の要介護度では同程度か低い値となっています。

図表 要介護度別の出現状況（後期高齢者）（組合全体=1）



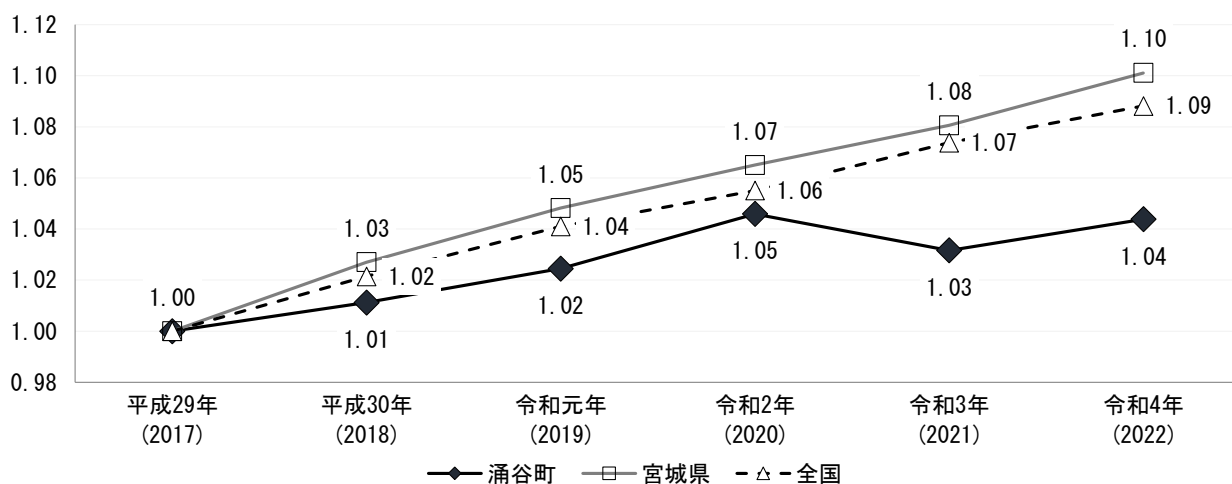
資料：涌谷町健康課（令和4年（2022）9月末現在）

## 6 国・県との比較

### (1) 要介護認定者数の比較

介護保険事業状況報告月報による要介護認定者数の推移をみると、平成 29 (2017) 年を“1”としたとき、涌谷町では令和 4 (2022) 年に 1.04 となっており、宮城県、国と比較して低い伸びとなっています。

図表 要介護認定者数の推移 (平成 29 年=1)



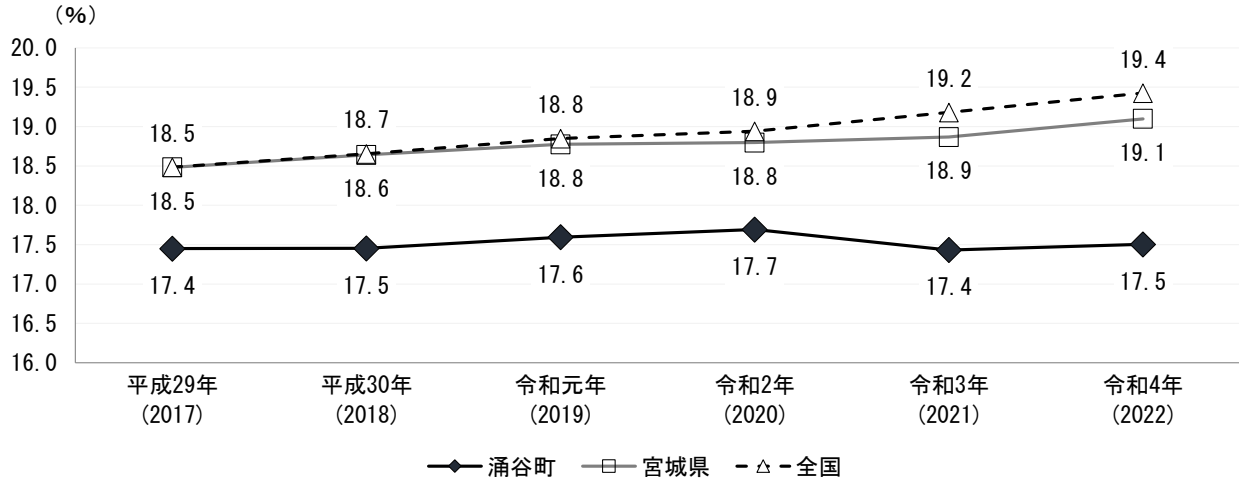
区 分	平成 29 年 (2017)	平成 30 年 (2018)	令和元年 (2019)	令和 2 年 (2020)	令和 3 年 (2021)	令和 4 年 (2022)
涌谷町 (人)	981	992	1,005	1,026	1,012	1,024
宮城県 (人)	113,283	116,343	118,746	120,650	122,412	124,736
全国 (人)	6,407,259	6,544,738	6,669,919	6,759,856	6,880,125	6,972,055

資料：介護保険事業状況報告月報 (各年 9 月分)

## (2) 要介護認定率の推移比較

介護保険事業状況報告月報による要介護認定率の推移をみると、全国、宮城県ともに上昇傾向となっており、涌谷町の要介護認定率と国、宮城県を比較すると各年とも涌谷町が下回る推移となっています。

図表 要介護認定率の推移

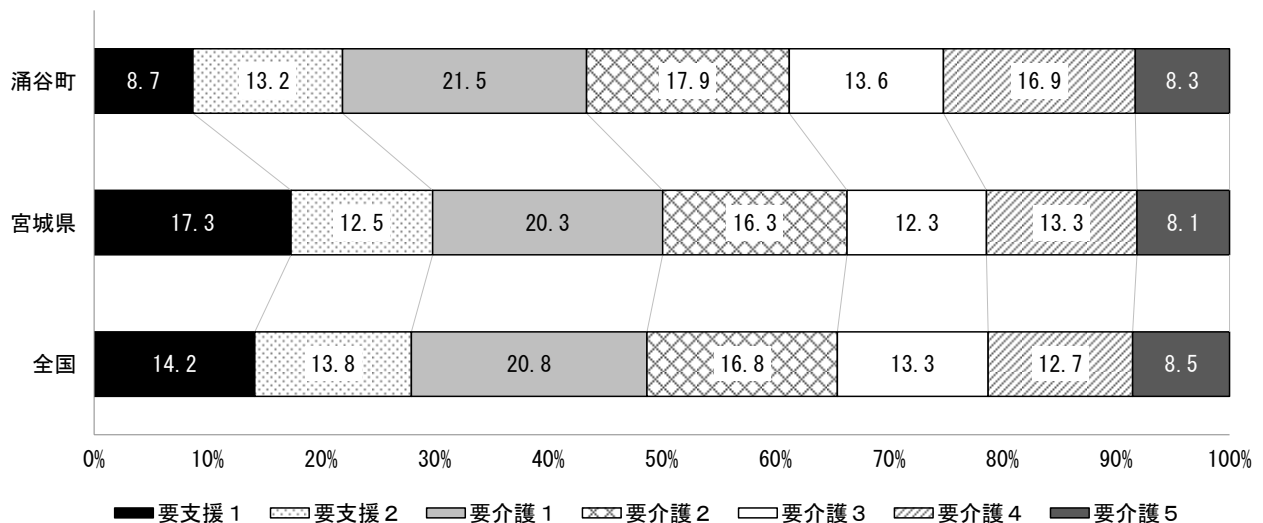


※認定率は認定者数（第2号被保険者含む）に第1号被保険者数で除して算出  
資料：介護保険事業状況報告月報（各年9月分）

## (3) 要介護度別構成比の比較

令和4年（2020年）9月の介護保険事業状況報告月報による涌谷町、宮城県、全国の要介護度の構成比をみると、涌谷町では要支援1の割合が低く、要介護4の割合が比較的高くなっています。

図表 要介護度別構成比の比較



資料：介護保険事業状況報告月報 令和4年（2022年）9月末現在